

地小出版
方小版

情報誌

アクセス

毎月1回	1日発行
購読料	定価 150円 (本体 143円)
	年間 1,500円 (税込み)
振替	00120-0-19017

発行所 (株)地方・小出版流通センター
編集 アクセス編集委員会

〒162-0836 東京都新宿区南町20
TEL.03-3260-0355 FAX.03-3235-6182

『絵本の風 子どもとおとなの絵本100冊の魅力』出版

子どもと一緒に心の旅を

鶴岡タイムス社

文・門脇 亘

鶴岡タイムス社は、山形県庄内地方の鶴岡市を中心エリアに毎月2回、無料の地域情報誌「鶴岡タイムス」を1999年10月から発行している。

このほど出版した『絵本の風 子どもとおとなの絵本100冊の魅力』(赤澤洋子著)は、本誌に創刊当初から毎月1回掲載し、好評を博していたコーナー「子供と大人の絵本」の中で紹介した130冊の中から100冊を選び加筆、修正したもの。単行本化するにあたり編集は、詩人まど・みちおさんの作品などを手掛けている市河紀子氏に、表紙のイラストは鶴岡市出身の絵本作家ましませつこ氏に担当していた。

著者の赤澤氏は30年以上も家庭文庫を開き、父に歌ってもらった童謡絵本が原体験に

著者の赤澤氏は長野県松本市出身。結婚を機に鶴岡市内で暮らし始め30年以上も家庭文庫を開いている。その原体験は、3歳のころにこたつの中で父親に抱かれながら歌ってもらった童謡絵本。体に伝わる声の響きと安心感が心の底に染み込み、人に対する信頼感と自分の美意識の基にもなっているという。

自宅に文庫を開く際には、町内にチラシを配り、太鼓をたたいて回り、空き地で紙芝居も披露した。月山、鳥海山、近くの里山、だだちゃ豆、平野に実る稲穂、横殴りの地吹雪…、四季の移ろいをはっきりと感じる豊かな自然の中で、ただ夢中で子どもたちと一緒に本を読むことを楽しんだ。時には

たった1人だけしか来なかった日もあったが、ここに集まる子どもたちと一冊一冊は、宝物ようになっていった。

本書では文庫での体験などを織り交ぜながら、お薦めの絵本を紹介している。この中から3作品に関する内容を抜粋して紹介したい。

「おにぎり」(平山英三・文、平山和子・絵、福音館書店、定価840円)

——2歳のあき君に読んだとき、彼の口からよだれがツートと落ちてきまし



た。とっさにそれを手で受けて、大笑い。「よだれが出るほどおいしい絵本でなんだろう」と、あらためて読み直した…。赤ちゃんだって絵本を読んでもらうことは大好き。こんな食べ物の絵本から始めませんか——

「はらぺこあおむし」(エリック・カール・作、もりひさし・訳、偕成社、定価1260円)

——子どもたちが「まだまだおなか はぺっこぺこ」の繰り返しに、だんだんにじり寄り寄ってきました。あながい

ているしかけに指をつつ込んで…。文庫で貸し出した本が返ってきたとき、表紙のあおむしに口が書き込んでありました。「お口がなければ食べられない」と心配してくれたのです。絵本の世界を食べつくし、遊びつくして子どもは成長してゆきます——

「サンタクロースってほんとにいるの?」(てるおかいつこ・文、すぎうらはんも・絵、福音館書店、定価945円)

——「ねえ、サンタクロースってほんとにいるの?」に始まる子どもの質問に「いるよ」。さりと答える父親…。次々の質問の答えに夢と願いがありません…。30年前、サンタのプレゼントが気に入らなくて「サンタなんてうそつきだ」と怒った息子に「サンタなんていないの。…約束のおもちゃはどの店も品切れだったの」と言いながら親子で泣いてしまった——

100人いれば100通りの暮らし、考え方がある。庄内・鶴岡という一地方都市の風土にはぐくまれ、自身の子、また文庫に通ってくる子どもたちと歩んできた中で体験、エピソード

は、赤澤氏個人のものにすぎない。しかし、そこで出会った絵本には、普遍の価値、必要性、美しさがあると感じ取ってもらえるのではないだろうか。

赤澤氏の心の旅は常に本と共にあった。「東の東、西の西を知りたいとかき立てる心に促された旅は、冒険も、喜びも、悲しみも、痛ささえもある。その道をしぼらく共に歩いてほしい。子どもは安心して、より遠くの世界を見ることができるようだから。どうか絵本を読んでほしい」と語る。

見えないエネルギーを放ち続ける絵

本。そんな「宝物」と出会うきっかけになればと願っている。

出版を記念して先日、ささやかなパーティーを開かせていただいた。その際、お世話になった福音館書店の元編集長齋藤惇夫氏からは「子どもと大人に元気を与えてくれる」、また、こ

ぐま社を創設した現会長の佐藤英和氏からは「あたたかな、さわやかな風がみんなに吹いてくれることを願っている」と祝辞を頂戴した。この場を借りて、あらためてお礼を申し述べたい。



『絵本の風 子どもとおとなの絵本 100冊の魅力』(赤澤洋子著)

B6判オールカラー、216ページ、定価1575円(本体1500円)。2010年10月刊行。ISBN 978-4-9905331-0-6

(かどわき わたる/有限会社鶴岡タ イムス社編集長)

新刊ダイジェスト

※価格は総額(税込)表示です。

『刑務所の中の中学校』 ●角谷 敏夫著



生徒は受刑者。日本で唯一、刑務所の中にある中学校として昭和30年に誕生した松本市立旭町中学校「桐分校」。平成20年まで35年間、教鞭を取った著者が分校設立の経緯や生徒たちと過ごした日々を彼らの感想や自身の日記から振り返る。年2回、遠足があるが、生徒に手錠と縄はつけない。「信頼」という武器があるからという言葉が彼らの心に響く。もちろん挫折を訴える生徒

もいるが、その度に対策を必死に考え、学ぶことから生きる力を養いたいと願う著者に彼らの心は動かされる。「日本一勉強する中学生」と言われる彼らの学ぶ姿勢は真剣そのものであり、教育の原点が示されている。10月に放映されたTBS系ドラマは本書が元となっている。

◆1470円・四六判・191頁・しなのき書房・長野・2010/8刊・ISBN978-4-903002-27-9

『貸本屋独立社とその系譜 ー北方新書011』 ●藤島 隆著



明治末期から大正初期にかけて、札幌に独立社という貸本屋があった。多くの読書人に愛され、とりわけ青年たちの思想形成期に影響を与えた存在だった。まだ公共図書館が未発達な時代、「大衆の読書材を提供しただけでなく、大衆の読書習慣を育てた機関」として〈貸本屋〉は大きな役割を果たしたと著者はいう。独立社は、後に叢文閣という出版社を興す初代主人足助素一の際立った個

性がその中心的な存在であった。創設から支えた有島武郎や足助後を引き継ぐ創建社、再現社、白羊社。明治から昭和にかけての北海道の知識人たち、とりわけ独立社周辺のアナキストたちの動向を丹念に調べ描いた一冊だ。

◆1260円・新書判・225頁・北海道出版企画センター・北海道・2010/6刊・ISBN978-4-8328-1005-1

『人は山をめざす ー山岳科学ブックレット4』 ●能勢 博著



中・高年の間で登山が盛んである。本書は前半で歩く文化と登山のすばらしさについて、著者へのインタビュー形式でざっくばらんに語り合っているのが面白い。後半では登山には歩くという行為の一定の持続性が要求されるが、その体力を養成し、維持していく効果的な訓練法として著者は「インターバル速歩」を提案、その実践と効果が要領よくまとめられている。このシリーズの何

冊かについてはいままで本欄でも紹介されてきたが、どれも新鮮で精選したテーマを簡潔に、ブックレットならではの親しみのある編集で関心を呼んでいる。山岳の豊かな背景と土壌を有する地域だけに、今後中広い分野からのテーマが継続して永く刊行されていくことを望みたい。

◆980円・A5判・53頁・オフィスEMU・長野・2010/5刊・ISBN978-4-904570-18-0

『石牟礼道子の形成』 ●新藤 謙著



代表作『苦界浄土—わが水俣病』の著者・石牟礼道子(1927生)について、その「異色強烈な個性の形成過程を辿った」ものである。「生命を育んだ母胎であり、羊水である海をチツソは毒液によって汚し、魚介類や猫や人間を殺した」その水俣の豊かな海をのぞむ地で生まれ育つ。すべてその地元に材を取った『苦界浄土』『椿の海の記』『おえん遊行』『西南役伝説』をはじめとする多く

の作品を、「企業犯罪と日本の近代」「自然と人生」「精霊たちの寓話」「人民の歴史」の4群に分けて、それぞれの著作に至る石牟礼道子の軌跡をたどる。なかでも日本の「近代」への批判的考察は彼女の大きなテーマである。なお能は彼女にとってゆきつく必然の媒体という。

◆1890円・四六判・174頁・深夜叢書社・東京・2010/9刊・ISBN978-4-88032-305-3

売行良好書

期間：2010年10月16日～11月15日

【出荷センター扱い】※税込み価格

- (1)『河野裕子』1890円・青磁社 (2)『まめたるう』1680円・東京子ども図書館
- (3)『いのちの乳房』2625円・赤々舎 (4)『命の絆をつなぐ教育』2100円・一葉社
- (5)『刑務所の中の中学校』1470円・しなのき書房 (6)『スズメはなぜ人里が好きなのか』1995円・弦書房 (7)『どんぐりの図鑑 フィールド版』1260円・トンボ出版 (8)『クラゲに学ぶ』2520円・長崎文献社 (9)『いい会社をつくりましょう。』1260円・文屋 (10)『マビヨン通りの店』2100円・編集工房ノア (11)『ことばに会おう』3150円・天野祐吉作業室 (12)『しょうがLife』1260円・ベターホーム出版局 (13)『ぼくはこうやって詩を書いてきた』2940円・ナナロク社 (14)『知』の万華鏡』735円・武田書店



【三省堂書店神保町本店4F—センター扱い図書】※税込み価格

- (1)『東京かわら版 11月号』420円・東京かわら版 (2)『円周率100万桁表』330円・暗黒通信団 (3)『河野裕子』1890円・青磁社 (4)『酒とつまみ 13号』400円・酒とつまみ社 (5)『HB 07』500円・HB編集部 (6)『大日本帝国陸海軍 2』3800円・池宮商会 (7)『戦国大名今川氏四代』2800円・羽衣出版 (8)『山手線は廻る』1260円・揺籃社 (9)『生活考察 2』780円・辻本力 (10)『マビヨン通りの店』2100円・編集工房ノア

【ジュンク堂書店新宿店—センター扱い図書】※センター出荷データより/税込み価格

- (1)『円周率1,000,000桁表』330円・暗黒通信団 (2)『神様は本を読まない』1365円・本の雑誌社 (3)『山手線は廻る 環状鉄道の誕生』1260円・揺籃社 (4)『千利休』1785円・本の雑誌社 (5)『素敵なフランス語のフレーズ365』1575円・カラーフィールド (6)『沖縄から見える歴史風景』1575円・編集工房東洋企画 (7)『河野裕子』1890円・青磁社 (8)『四角い家の秘密』1575円・書肆侃侃房 (9)『地球惑星科学入門』2940円・北海道大学出版会 (10)『アート・インダストリー』1680円・美学出版

以下ホームページでも各種情報提供を行なっております。ご利用ください。
<http://www.bekkoame.ne.jp/~much/>

トピックス — ★★

▼写真集『いのちの乳房』のこと

日本テレビ系列の『深イイ話』やNHK教育テレビ『医療福祉ネットワーク』といったTV番組、そして新聞各紙で取り上げられ、現在、写真集『いのちの乳房 一乳がんによる「乳房再建手術」にのぞんだ19人』(2625円)が多くの反響を呼んでいます。撮影は、自らもがん手術を体験したアラサーこと荒木経惟氏で、被写体は、乳がん手術によって乳房の変形を余儀なくされながら、乳房再建手術によって自信を取り戻した19人の女性たち。そして版元は、設立4年にして、多くの若手写真家を育て、近年続けて木村伊兵衛写真賞受賞作品を刊行してきた赤々舎。そもそもこの写真集は、書籍の企画・出版も行う異業種交流的ワーキングチーム・STPプロジェクトの企画によるもの。女性3人で構成されるこのチームのメンバーのおひとり乳がんを罹患し、乳房再建手術に臨んだ経験がきっかけになっています。この乳房再建手術はまだ一般的ではなく、多くの乳がん患者さんにとっては未知なまま。STPプロジェクトでは、この写真集を、乳がんの患者さんへの希望の情報として、全国の乳癌外科医と乳がん看護の認定看護師に寄贈する計画をたてています。詳しくは、STPプロジェクトのWebサイトにて。そう言えば、赤々舎代表の姫野希美さんからこの写真集の話がうかがった時、書店さんの棚に置いてもらえるなら、どうしても実用書や医療コーナーに置いてもらいたいと言っていました。赤々舎なのに？アートではなく？荒木経惟撮影だというのに？と疑問も感じましたが、ひとりでも多くの乳がん患者さんの目に触れるように、との思いがあったのでしょう。


郵便販売のご注文方法

◎お名前、お届け先(郵便番号、住所)、連絡先お電話番号、ご注文品の書誌名、冊数の必要事項を明記のうえ、下記までFAXでご連絡ください。
◎送料は、冊子小包・メール便共実費でお送りさせていただきます。基本的にメール便は、一冊210円でお送り致します。(メール便の到着は、発送してから3～4日かかります。)お急ぎの方、その他ご要望がございます場合はお気軽に下記までお問い合わせ下さいませ。
◎なお書籍お買上総計(税抜き価格)が5,000円以上の場合は、送料をサービスさせていただきます。

★地方・小出版流通センター

FAX：03-3235-6182

地方・小出版物のデータになります。綴じて保存してください。



三省堂書店

BOOKS SANSEIDO

神保町本店 4階
地方出版・小出版物フロア

営業時間 10:00 AM～8:00 PM
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1
TEL. 03-3233-3312(代)
URL. <http://www.books-sanseido.co.jp>

営業の
ごあんない

本店4階売場では、地方・小出版流通センター扱いの新刊全点のほか、地域別に書籍を取り揃えております。また、地域ならではのタウン誌、趣味の雑誌も扱っております。

